



平成19年(2007年)11月21日第28号

共有することのスタート

先日、新任の先生の授業を見る機会がありました。日ごろより、先生と子どもたちとの関係がよいのだろうと想像される、温かな雰囲気の中での授業が展開されていました。学年の先生方等とも十分な協議を重ねて本番を迎えていることが感じられ、学校として新任の先生の育成をされていることも感じられた授業でした。

私は、「教師はやはり授業で勝負」と言われるように、授業力を高めることと子どもたちへの関わりが何よりも大切だと考えています。しかし、子どもたちだけでなく保護者への対応にも、力を注ぐことが必要となっている現実があり、教育相談業務に携わるようになってからは、つくづくそのことを感じるようになりました。



学校と家庭が車の両輪のようにうまく機能することで、学校教育活動も前に進んでいきます。そのためにも信頼関係の構築が必要不可欠なのですが、保護者の中には、学校や教師への不安や不満な気持ちが、さらに不信へとつながってしまわれる方があります。

学校への苦情をくり返し言われる方もおられますが、多くの場合は、自分の存在や自分の願いをわかってほしいという強い気持ちが基本にあります。わかってもらえない(不安や不満)と感じれば感じるほど、主張はさらに強くなっていき、信頼関係に溝が生じていきます。

学校には、できることとできないことがあります。保護者の願いをすべて受け入れることができないこともあります。しかし、保護者の不満や不安がまだ高いのに「そうは言ってもね、～」「でもね、～」といわれると、わかってもらえず否定された感じとなり、溝は深まるばかり。

初期段階で、保護者が何を願っているのか、何を不安に感じているのか、その思いを聴き、その思いをまず受けとめることが必要です。自分の思いを受けとめてもらえたと感じたとき、学校として何ができるのかの話を進めることができ、互いの思いを共有することにつながっていくと思います。

コミュニケーションは、ラテン語の“共有する”が語源となっているとききます。コミュニケーションスキルの“聴く”という基本に立ったときが、互いの思いを共有することのスタートとなります。(大屋)

第 53 回小中学生理科展・科学教室

9月13日(木)～17日(月)に教育センターで行われました第53回小中学生理科展に、小学生356点、中学生109点合計465点の出展があり、1,179人の来場者で賑わいました。

この中から小学生6点、中学生6点が、大阪府学生科学賞に出展され、第四中学校夜間学級の共同作品「タンポポの花の数の研究」が、大阪府教育委員会賞を受賞しました。

また、理科展に合わせ、16日(日)、17日(月)には、小中学生に科学教室を開催し、二日間で延べ314人が参加されました。第四中



浮沈子作り

学校自然科学クラブの「浮沈子作り」、府立北野高校化学研究部の「おもしろ化学実験」、大阪大学サイエンスクラブの「万華鏡作り」、独立行政法人産業技術総合研究所関西センターの「無重力を体感しよう」の4つの教室が開かれ、科学に親しみ良い機会となりました。

特に、「おもしろ化学実験」では、何も触らなくても、液体の色が変化していく実験に、多くの人不思議に思い、たくさん質問をしていました。



小中学生理科展の様子

理科教育研修

10月29日に大阪大学総合学術博物館(修学館)で理科教育研修を実施しました。

兵庫県立人と自然の博物館(三田市)ミュージアムティーチャーの長谷川太一先生を講師としてお招きしました。

前半は、博物館3階のセミナールームでの講義です。

講義が始まると、先生は持ってこられた大きな袋から次々にさまざまな植物を取り出されて示されました。

『ちがいをみつける』『観察の深さをはかる』をキーワードに、平日頃何気なく見て「知っている」と思っているものでも、改めて別の視点からよく見てみると新たな発見があると言われ、そのひとつの例として、その大きな袋から私たちにとってもっとも身近な野菜であるダイコン、ニンジン、サツマイモを出して受講者に配られました。何が始まるのだろう、受講者の期待が高まる中、先生は、側根があった部分につまようじを刺すように指示をされました。(写真)すると、野菜の種類によって側根の場所は見事に異なっているのです。(ちなみにダイコンは2列、ニンジンは4列、サツマイモは5列または6列に並ぶのだそうです。)このような側根による分類の仕方はどの図鑑にも書いていないということです。

その他、ツル植物の維管束について、ヘチマの命名の秘密、シラカシとアラカシの見分け方、ネズミモチとトウネズミモチの葉脈による区別、竹の枝を見て根を張っている方向を知る方法等々、植物の見方をたくさん教えていただきました。

後半は屋外に出て、遊歩道を歩きながら待兼山の植物を観察しました。前半の講義に出てきたお話を再確認しながら、また新しい視点を教えていただきながらの実習となりました。

参加された先生方からも活発な質問が出され、大変実りの多い研修となりました。



データのセキュリティを高めるには…

個人情報等、パソコンで処理したデータのセキュリティを高める方法をご紹介します。

○「エクセル」や「ワード」にパスワードを設定する

文書作成画面から、「ツール」→「オプション」→「セキュリティ」からパスワードを設定する方法と、名前を付けて保存画面から、「ツール」→「セキュリティオプション」でパスワードを設定する方法の2種類あります。

どちらも、読み取りパスワードと書き込みパスワードが求められますので、任意のパスワードを入力します。再度確認のパスワードが求められるので入力します。この方法でパスワードを設定して保存すると、文書を開く際にパスワードを求める画面が表示されますので、パスワードが分からないと文書を開くことができません。

パスワードを解除するには、パスワードの設定画面を表示させ、パスワードを削除すれば解除されます。

○ソフトを使って暗号化する

暗号化やパスワードをかけるソフトは多くありますが、新聞等で取り上げられている、フリーソフトのアタッシュケースを紹介します。このアタッシュケースは、職員室のインターネット機にはインストールされています。

アタッシュケースのショートカットにファイルをドラッグすると、パスワードが求められますので入力して、「暗号化」をクリックします。再確認画面が表示されますので再度パスワードを入力して、「暗号化」をクリックすると、デスクトップ上に暗号化されたファイルができますので、フロッピーディスクや任意のフォルダーに保存します。

開く場合は、暗号化されたファイルをアタッシュケースのショートカットにドラッグします。パスワードが求められるので、パスワードを入力すると、デスクトップにファイルが置かれます。

アタッシュケースは、ファイルだけでなく、フォルダーごと暗号化することもできます。詳しくは、平成18年度(2006年度)導入版とよなかスクールネットパソコン教室使い方ガイドの203ページをご覧ください。

どの方法も100%セキュリティが守られるものではありませんが、有効な方法と考えられます。ただし、パスワードを忘れるとデータを開くことができませんので、注意が必要です。ご質問等がありましたら、情報・科学教育係までお問い合わせください。

豊中市研究協力員報告会を開催します

研究協力員の皆さんが、今年度取り組んでこられた研究の成果を発表されます。授業研究や教材開発など研究協力員の各教科・領域研究会では、よりわかる授業をめざし、日々研究に取り組み、実践を重ねられてきました。その成果を報告していただきます。明日の授業にいかせるヒントも得られることでしょう。

当日は、奈良教育大学 小柳和喜雄 准教授に、「子どもたちが自信を持つ授業をどのように構築していくか」をテーマにご講演をいただきます。授業作りをしていく上での、新しい視点を得ることができるはずです。

多くの先生方のご参加をお待ちしています。

と き 平成20年(2008年)1月7日(月)13時15分～(12時50分より受付)

と ころ 豊中市教育センター

問合せ先 豊中市教育センター 研究・研修係 電話 06-6844-5291

※ 詳細については、別途ご案内いたします。



うなずきの大切さ

先日テレビで『うなずきの効用』というテーマの番組が放送されていました。うなずき技術の生みの親、岡山県立大学の渡辺富夫教授は、うなずきロボット‘SAKURA’を考案しました。母親の語りかけとそれに反応する赤ちゃんの動きにヒントを得て‘SAKURA’は作られたとのこと。『うなずき』が人と人との関係の中で、どのような役割を果たしているか考えてみましょう。

子育ては育児書通りにはいかないことが多く、子どもとの関係の中でその時その時判断して対応していくものです。しかし、自分に自信がもてない人は子育てにおいて迷い、どうしたらいいかわからないくらい動揺してしまうこともあります。そのような時、子育てをしていくのに全面的に自分を受け入れてくれて支えてくれる人が必要となってきます。相談室を訪れた保護者の方は子育てに対する不安・心配・いらだち等を相談員に訴え、「うん、うん」とうなずいて聴いてもらい、つまずきながらも子どものために一生懸命頑張っている姿を褒めてもらいます。回数を重ねて相談室へ来所されるうちに保護者の方は自信を少しずつとり戻し、心が安定してきます。肩に力を入れないでわが子に温かく接することができるようになり、子どもの気持ちにそったかわり方ができるようになります。相談員にうなずいてもらって熱心に話をできることが、保護者の心の成長を生み出します。そして子どもの話をうなずいて聴けるようになるという連鎖反応を生み出し、子どもの心も和らいでいくのではないのでしょうか。

家庭でも同じことがあります。緊張関係にある（対立する意見をもつ）親子はお互いに自分の思いを相手にわからせようと思ひ思ひにしゃべりつづけます。この時親が一步さがり黙って子どもの意見を「ふん、ふん」とうなずいて聴くと、一方的に自分の意見を述べていた子どもの心にすきまができ、そこに相對していた親の意見、気持ちが入るようになります。そこで初めてほんの少しお互いに相手の気持ちをわかり始めることができるようになります。

『うなずき』はうなずいてもらった相手へ「自分のいうことをちゃんと聞いてもらっているという安心感」「うなずいてくれる相手との一体感」を与え、もっと話そうという意欲を高めます。また、相手の気持ちをわかろうと一生懸命聴いていることを相手に伝えるサインでもあります。うなずきの基本は息が合うことだといわれています。したがって、『うなずき』はコミュニケーションの第一歩であり、あらゆる人間関係の要といえるのではないのでしょうか。（竹田）

